
蒲公英

半沢良

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蒲公英

【Nコード】

N4859T

【作者名】

半沢良

【あらすじ】

雲ひとつない真つ青な空を見上げ

新緑を揺らす爽やかな風に身を任せれば

私は透明な羽根を持つ自由な旅人となるのだ

蒲公英の奇妙な旅立ち。

雲ひとつない真つ青な空を見上げ

新緑を揺らす爽やかな風に身を任せれば

私は透明な羽根を持つ自由な旅人となるのだ

1

雨に打たれ風に吹かれ犬に踏まれた。

しかし私は倒れない。たとえ竜巻が雷が腹をすかした狼が来ようとも。

旅立ちのその日まで。私はこの地で倒れるわけにはいかないのだ。

それは誰かに教わったわけではない。経験則でもない。ただそう解るのだ。

2

私はこの身をより遠くよりよい地に運ばなければならぬ。

もし神様がいたらそれならそれは神様からの使命みたいなものだ。

私は自分の使命を全うする。そうしていることが最大の幸せなのだ。

空に浮かぶ太陽が真つ赤に燃え地平に落ちていく頃。

けがらわしい一匹のどぶねずみが腰を低くして話しかけてきた。

「旦那、旦那。あつしにはもう食べるものがありやせん。どこかに食料はありやせんか。」

「私と君では食べるものが違うのです。君には太陽の味がわからな
いでしょう。」

「太陽？太陽ってのはあの今死に掛けてるあれのことですか？あんな

なもんは食べ物じゃありません。第一あつしは光が苦手です。違
うものはありませんか。」

私は首を傾げる。どうやらこのどぶねずみは本気で私のような者に
相談を持ちかけているらしい。私はそれまで動けるものと話したこ
とが無かったので少し誇らしくなったのだ。

「私には君の食べ物が分かりません。あの向こうの丘を越えてみて
はどうですか。」

「向こうの丘でやんすか。向こうにはあつしらを狙うフクロウが陣
取ってるという噂があります。仲間も警戒してとるんです。」

「そうですか。」

「奴等もあつしらと同じで光が苦手です。昼間に丘を越えられ
ばいいんですけどねえ。」

「ならば私に妙案があります。」

「本当でやんすか。教えて欲しいです。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4859t/>

蒲公英

2011年5月22日23時08分発行